
九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン検討委員会 第4回委員会資料

九州大学・福岡市

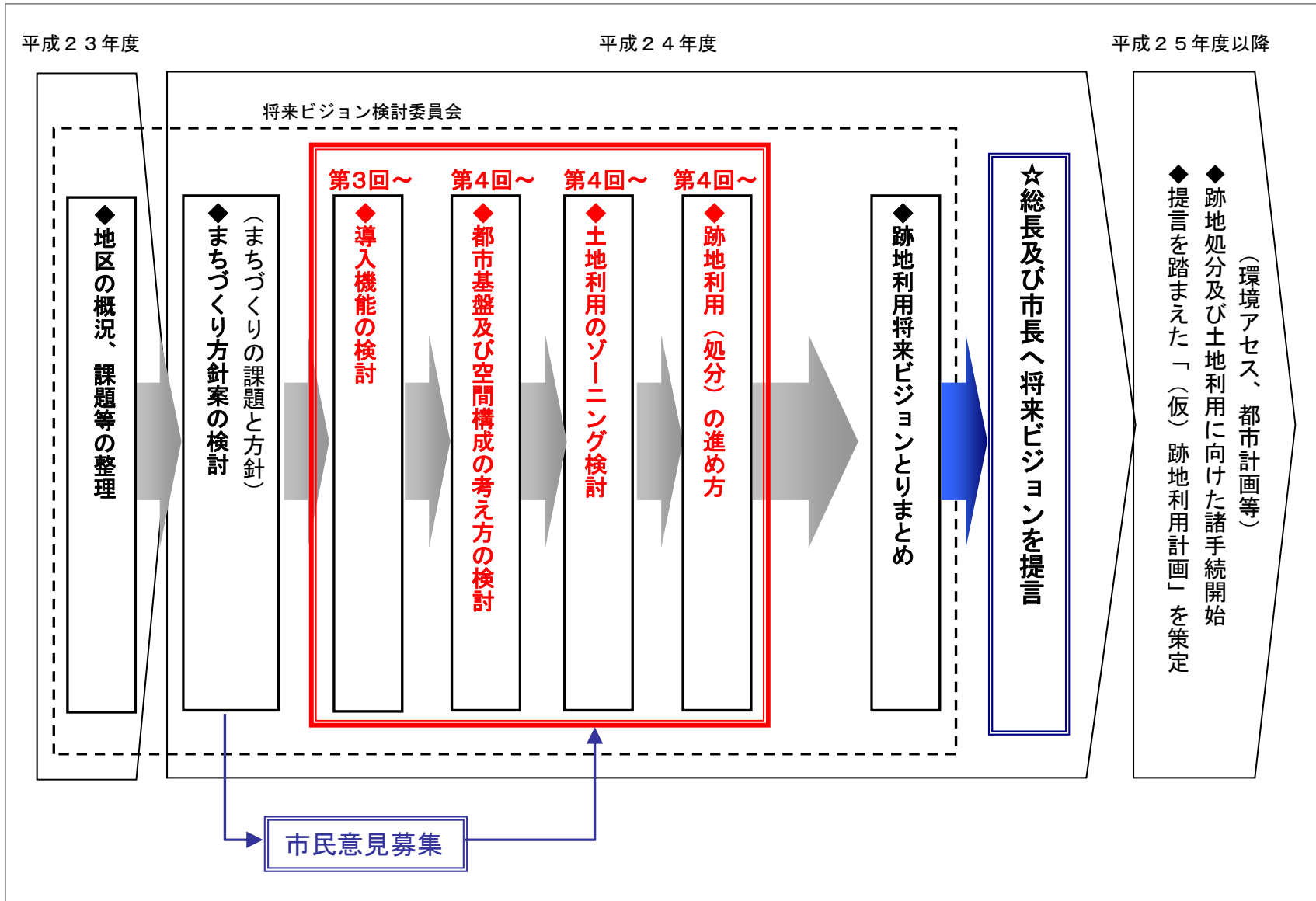
■第4回委員会資料 目次

構 成		頁
第4回委員会の検討内容	委員会検討フロー	1
まちづくりの方針(案)への意見募集について	まちづくりの方針(案)への意見募集について	2
導入機能の検討について	民間アンケート調査結果 について	7
都市基盤及び空間構成の考え方について	都市基盤・空間構成・土地利用ゾーニングの考え方	12
	都市基盤・空間構成検討の視点	13
	都市基盤の考え方について	14
	空間構成の考え方について	15
土地利用ゾーニングについて	土地利用ゾーニングの考え方	16
跡地利用(処分)の進め方	跡地利用(処分)の進め方	17

第4回委員会の検討内容

第4回委員会の検討内容

■委員会検討フロー



【参考】将来ビジョンの構成案

1. 将来ビジョン策定の目的 【第1回】
2. 地区の課題と優位性 【第1回】【第2回】
3. まちづくりの方針 【第2回】【第3回】
4. 導入機能の検討 【第3回】【第4回】
5. 都市基盤の考え方 【第4回】～
6. 空間構成の考え方 【第4回】～
7. 土地利用のゾーニング 【第4回】～
9. 跡地利用(処分)の進め方 【第4回】～
10. 跡地利用を進める上での課題

まちづくりの方針（案）への意見募集について

まちづくりの方針案（案）への意見募集について

■意見募集の概要

意見募集の内容	現在、検討中の「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」の「まちづくりの方針(案)」について
募集期間	平成24年8月27日(月)～平成24年9月26日(水)まで

(参考)

- ・市民への広報、周知 : 市政だより、市ホームページ、九州大学ホームページ、新聞 等
 - ・閲覧、配布場所 : (福岡市役所) 九大跡地計画課、情報プラザ、情報公開室、各区役所情報コーナー、西部出張所、入部出張所 (九州大学) 伊都キャンパス統合移転推進課 箱崎キャンパス統合移転推進課分室 (その他) 周辺4校区の各公民館(東箱崎、箱崎、筥松、松島)
- ※総配布部数：約350部以上
市ホームページへのアクセス件数：2,490件

■意見提出者の属性等について

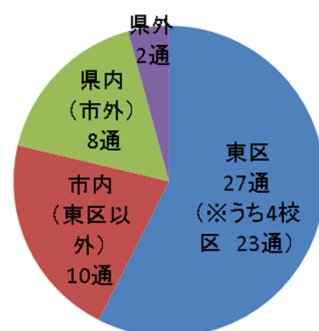
意見提出数
47通

意見件数
127件

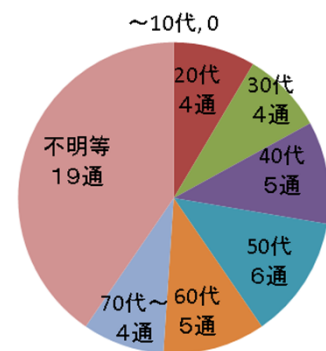
- ・意見提出者の住所区分は東区が58%、市内(東区含む)が79%、市外は21%。
東区の27通中、23通が周辺4校区の居住者。
- ・各年齢層から幅広く意見が寄せられている※回答必須項目ではないため、不明もあり。

【参考】意見提出者の属性

意見提出者の住所区分



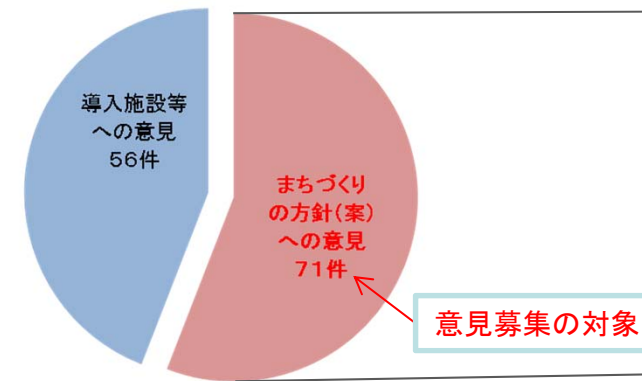
意見提出者の年齢区分



■意見の分類、概要

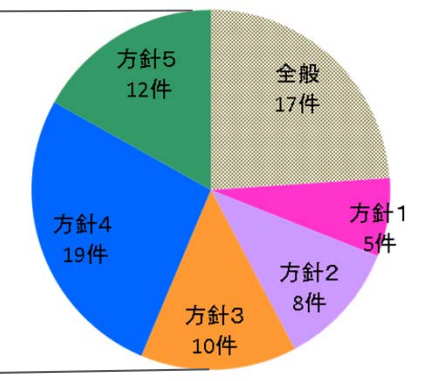
意見の種別(分類)

(単位:件、n=127)



まちづくりの方針(案)への意見(内訳)

(単位:件、n=71)



まちづくりの方針(案)への意見 →P3	71件
導入施設などに関する意見 →P6	56件

方針全般への意見	17件
方針1(成長・活力・交流)への意見	5件
方針2(教育・研究)	8件
方針3(安全・安心・健やか)	10件
方針4(歴史文化)	19件
方針5(環境・エネルギー)	12件

○意見への対応等について

- ・寄せられたまちづくりの方針(案)への意見の要旨及び対応について、一覧表にて整理。(次ページ)
- ・意見の大半は、まちづくりの方針(案)と同様の意見や後押しするような意見等、肯定的な意見であった。
- ・なお、具体的な導入施設の立地等について寄せられた意見については、実現可能性等を踏まえながら、今後のまちづくりの参考とする。(意見の要旨については、本資料P6参照)

【参考】若い世代(20代、30代)の回答の傾向等について

○若い世代(20代、30代)のまちづくり方針(案)への主な意見

- ・まちづくりの方針(案)に賛同 ※2件
 - ・各駅毎にエリアの差別化を図る。
 - ・文化、教育、スポーツ、コンベンション施設の立地(方針1)
 - ・人が集まる施設(シンボル)が必要。(方針1)
 - ・医療福祉施設の立地、外国人が多かった箱崎の歴史を表す施設(方針2)
 - ・防災拠点の設置を提案します。(方針3)
 - ・歴史的な建物の保存活用(方針4)※2件
- まちづくりの方針(案)全般に賛同する意見(2件)があった。
→導入施設の立地等の意見も含めると、各世代で意見の多かった既存建物の保存活用のほか、人が集まる施設の設置【方針1】、教育研究関連機能の立地【方針2】、子育て支援施設等の居住環境【方針3】に関する意見が他の世代より比較的多い割合であることが特徴であった。

まちづくりの方針案（案）への意見募集について

まちづくりの方針(案)への意見要旨(71件)【意見募集の対象】

【方針案全般への意見】		事務局対応案			
【方針案を支持する意見】(5件)		原案どおり	まちづくり方針案の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。		
1	基本的に、まちづくり方針案の方向性に共感します。				
2	全体像原案が箱崎キャンパスの跡地及び周辺地区の「まちづくり」に対して指向するところは結構である。				
3	「まちづくりの方針(案)」に賛同します。				
4	「まちづくりの方針(案)」は、さまざまな視点から調査・分析を行い、よく組み立てられている。				
5	まちづくり方針に沿った土地利用が可能となるのがベスト。				
【跡地利用の前提や処分、整備全般に関する意見】(7件)		参考	この地区にふさわしい様々な機能を誘導しつつ、将来的なまちの一体感を創出することが重要と考えており、今後、具体的な跡地利用や処分等を検討するうえで参考とさせていただきます。		
6	心配なのは、総花的に土地利用が細切れに設定されて、単に雑多な市街地が拡大しただけになってしまうことです。跡地内の一体的・有機的な利用形態を優先して、ある程度の閉鎖性を許容したほうが、次の100年後を考えた革新的なまちができると思います。				
7	跡地全体を市が保持(入手)して、一体のもの“都市像形成資源緑地(仮称:「21C福岡アジアの杜」)”として管理し、価値ある建築物、農学系標本林などを適宜活用しながら、有用な活動用途に「定期借地(底地)権方式」ではめ込みを進める。決して‘用地(敷地)’,としての拙速な切り分けをしないことを求めます。				
8	いろいろなプランが出されていますが、ハード面のことばかりで意見が交わされているように思います。ハコができあがっても、中身が充実しなければ、流行モノのように、はじめはたくさんの人が集まるでしょうが、徐々に廃れてくるのは目に見えています。				
9	箱崎跡地を、公共で所管するより民間に売却することは妥当				
10	「公用、公共優先のきまり」は是非守ってください。				
11	現存の建物・設備を最大限に利用し、初期投資を最小限に留め、実施は長期計画で、財政の許す範囲内で徐々に進めてゆけばよい。				
12	段階的整備がまちづくりとしてはかえって望ましい。先行整備地区を設けることがまちづくりとして望ましい。				
【新たなまちのシンボル・特色を創出すべき】(2件)				参考	今後、具体的な跡地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。
13	「箱崎＝九大キャンパス」に替わる、インパクトある新たなまちのシンボル創出(新しい価値の創出)の視点も必要。				
14	各駅ごとに特色の違う施設を作ると、エリアの差別化ができる				
【地元意見を尊重すべき】(2件)				原案どおり	引き続き、地域の皆様のご意見に十分耳を傾けながら検討を進めてまいります。
15	九大キャンパスの存在、その大きさ・形・活動による直接的な影響を箱崎地区(4校区)は受けてきています。そこにおける市民生活空間の成り立ち、成り行きの中で生じている矛盾・不都合を是正、調整することが忘れられてはなりません。				
16	箱崎4校区の意見書を尊重してください。大型開発、大手ゼネコン主導にならない様にしてください。				
【その他:よくわからない】(1件)		原案どおり	今後土地利用のゾーニング等を検討・お示しするなかで、まちのイメージはより明らかになるものと考えています。		
17	この方針を読んでもどういうまちにしたいのか見えてきません。				

【方針1(成長・活力・交流)への意見】		事務局対応案	
【活力・交流を生み出すための機能を整備すべき】(4件)		原案どおり	方針1の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
1	方針1の知識創造型産業施設や国の行政機能の分担集積、スポーツ・コンベンション機能の大胆な導入に賛同します。		
2	まちづくりの方針(案)にもありますように、新たな活力・交流を生み出す為には、やはり人が集まる施設(シンボル)が必要だと思います。		
3	ベンチャー企業の集団立地		
4	広大な敷地→文化、教育、スポーツ、コンベンション施設の立地		
【どこにでもある賑やかなまちは必要ない】(1件)		原案どおり	地区の拠点性や周辺に集積した都市基盤、機能等を活用し、市の新たな活力・交流を生み出す機能を検討することが必要と考えています。
5	新たな産業・・・には反対。どこにでもある賑やかなまちは必要ない。		

- 原案どおり・・・まちづくり方針(案)を支持する意見や、意見等を踏まえ検討したが原案どおりとしたもの
- 追加・修正・・・意見等を踏まえ、追加・修正したもの
- 参考・・・今後のキャンパス跡地のまちづくりの参考にする意見

【方針2(教育・研究)への意見】		事務局対応案	
【方針2に賛成する】(4件)		原案どおり	方針2の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
1	100年間九州大学があった文化的な静かな地域を守りたいという理由で方針2には賛成。		
2	充実した教育・研究環境を生み出し、人を育てる。		
3	大学跡地ということを活かして、教育・研究施設。		
4	学習関連施設の充実。		
【教育・研究機関の導入だけでは不十分】(1件)		追加・修正	ご指摘の生涯教育をはじめ、人を育てる幅広い教育を含む表現を追加します。
5	教育・研究機関の導入などには賛成である。しかし、それだけでは不十分で、それに加えて市民の生涯教育(自然科学、考古学、先端技術などに接し、楽しみつつ学ぶ)のための施設・機能を与えるべきである。		
【地域住民に対して貢献できる場所になるべき】(1件)		参考	今後、具体的な跡地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。
6	高等教育の場として、地域住民に対して貢献できる場所になって欲しい。都市、建築、まちづくりを考える上でも、産官学民が連携できるアーバンデザインセンターの設置を望みます。		
【その他:福岡の拠点になど】(2件)		参考	今後、具体的な跡地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。
7	情緒豊かで文化的に人を育てる福岡の拠点に。		
8	外国人が多かった箱崎の歴史を現すことがしたいです。案として、跡地で外国街をつくらば面白いと思います。各国の料理屋、外国文化センターなど施設で構成。		

【方針3(安全・安心・健やか)への意見】		事務局対応案	
【防災拠点にするべき】(4件)		原案どおり	方針3の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
1	資料にあった防災拠点を設置することを提案します。		
2	災害に強い地理的条件を活かし、災害発生の緊急時には広域防災拠点となり得ます。ここに、世界の英知を集めて将来は全世界の自然災害を研究し、防災活動の拠点とする。		
3	方針3の1)災害に・・・には期待する。特に首都圏のバックアップは重要だと思う。		
4	防災関連の拠点とし、広いスペースを自然公園という形で残しておくのはどうだろうか。		
【医療・福祉施設等を充実すべき】(3件)		原案どおり	方針3の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
5	方針3の2)九州大学病院等の・・・は必要。		
6	病院が近くにあるといったメリットを生かして、医療・福祉施設の建設		
7	全体を森の様な「大規模緑地公園」とし市民が自由に緑の中を散歩やジョギングを楽しめ、自分の健康を自分で管理出来る様なスペースとする。九大医学部が近くにあり、連携している位置を考え、緑の中の福祉施設をつくり、高齢者、障害者が安心して良い環境の下、生き生きと暮らせるようにする。		
【安心して暮らせる安全なまちづくりを目指すべき】(1件)		原案どおり	方針3の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
8	九大病院医療施設の充実と防災活動の場の創出などを進め、市民が安心して暮らせる安全なまちづくりを目指します。		
【若者・障がい者に配慮したまちづくりをすべき】(1件)		追加・修正	すべての人にやさしいまちづくりの視点を踏まえた表現を追加します。
9	若者(中高生)の居場所となるような環境、障がい者にやさしいまちづくりの視点を取り入れてほしい。		
【快適な居住環境は必要ない】(1件)		原案どおり	周辺地区の人口が増加している状況や公共交通機関が充実していることなどから、快適な居住環境の創出は必要と考えます。
10	快適な居住環境の創出は人口減の将来必要ない。		

まちづくりの方針案（案）への意見募集について

- 原案どおり・・・まちづくり方針(案)を支持する意見や、意見等を踏まえ検討したが原案どおりとしたもの
- 追加・修正・・・意見等を踏まえ、追加・修正したもの
- 参 考・・・今後のキャンパス跡地のまちづくりの参考にする意見

方針4(歴史文化)への意見		事務局対応案	
〔歴史的建築物等を保存・活用すべき〕(16件)			
1 歴史的建物遺産群の保存。	原案どおり	方針4の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。	
2 機能としてしっかり活かした形で「歴史的建造物」の形を残すこと。			
3 空港直下の東南部における歴史建築物→賛成			
4 歴史的建築物を主として、改修、防音強化を施して、そのまま活用するのが望ましい。			
5 近代化産業遺産群等を保存するとともに現存の施設をできる限り活用。			
6 方針4の2)九州大学の歴史文化資源の活用。			
7 貴重な建物を活かしてほしい。			
8 点在する「近代化産業遺産群」等に指定された、重厚な建築物を利用。			
9 九大の貴重な建物を活かす。			
10 今ある建築物(図書館や博物館、講堂など)を活かす。			
11 歴史の感じることでできる建物が多くあると思うので、出来る限り壊さないことが望ましい。			
12 明治、大正、昭和の時代から福岡の街に馴染んでいる歴史的建造物が多数現存しています。取り壊すのだけはやめてほしいと言っただけの意見です。			
13 歴史的建物を市民憩いのスペースとして、保存活用。行政・文化的な市民サービスに活用してください。	参考	今後、具体的な跡地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。	
14 九州大学100年の歴史のモニュメントゾーンを、歴史的建造物を中心とした地域に残し後世に伝える。(工学系地区の一部)			
15 既存建築価値の適切な評価と未来遺産的な位置付けと創造的活用が求められます。「旧工学部本館」、「旧航空工学科棟」、「五十周年記念講堂(構造技術)」、「建築学科棟(増築前の初期デザイン)」を重視し、他は割愛すべき			
16 九大内の建物を活かしながらの公園。			
〔その他:まち自体の良さを活かすべきなど〕(3件)			
17 商店街など、町自体の歴史があるので、その良さを活かしながら広域での土地利用で検討を続けてください。	原案どおり	方針4の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。	
18 九大百年の歴史、文化、資源を大切に。			
19 由緒あるものは大切に保存し、後世まで受けつがれることを切望致します。箱物は極力作らず現存している緑の木々は最小限残し、静かな佇まいがいつまでも続くことを切望します。			

方針5(環境・エネルギー)への意見		事務局対応案	
〔樹木等を保存・活用すべき〕(6件)			
1 現有の緑(樹木等)の保全・活用。	原案どおり	方針5の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。	
2 今ある樹木等を保存する。			
3 方針5の3)箱崎キャンパスの既存樹木の緑を残して有効に活用したい。			
4 樹木が数多くあるので活かしてほしい。			
5 今ある木々を活かす。			
6 敷地内樹木(特に農学部地区)の保存公園			
〔環境技術を導入すべき〕(2件)		原案どおり	方針5の実現に向け、今後の具体的な跡地利用の検討に取り組んでまいります。
7 環境技術や豊かな緑を活かして環境と共生。			
8 中水道や再生可能エネルギーを備えたまちづくりはよいと思います。			
〔公園とするべき〕(4件)		参考	今後、具体的な跡地利用を検討するうえで参考とさせていただきます。
9 街全体をあたかも1つの大きな公園のようにつくるというのはどうでしょうか。今でも車道が張り巡らされていない、ある意味不便な地区だからこそ、そういう発想での街づくりも可能ではないかと思います。			
10 キャンパスに余り盛りだくさんの機能を持たせるよりはむしろ、特に「方針2.4.」にある機能を含む施設などを配置した「緑地公園」にしたほうが良い。			
11 3分の1は公園として用いられますよう希望します。			
12 跡地を公園とする。			

■意見を踏まえた「まちづくりの方針」の修正案

【原案】

方針
2

九州大学が存在した地として、
**充実した教育・研究の環境を生みだし、
人を育てる**

教育・研究

九州の最高学府「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関の導入」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、**充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる**まちを目指します。

1) 教育・研究の場としての新たな高等教育・研究機関の導入

九州大学が100年存在した教育や知の拠点としての経緯を踏まえ、**新たな教育・研究機関を導入し**、社会を牽引する個性と創造性の富んだ人材を育成する場として継承を目指します。

○教育・人材育成機能

- ・大学等の高等教育機関
- ・初等から中等教育が連携した小中及び中高一貫校 など

○研究・開発機能

(略)

【原案】

方針
3

高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、
安全・安心・快適で健やかに暮らす

安全・安心
・健やか

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、「防災活動の場の創出」「医療・福祉・健康づくり環境の充実」「快適な居住環境の創出」を進め、**安全・安心・快適で健やかに暮らす**ことができるまちを目指します。

2) 九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実

周辺に九州大学病院等の高度医療施設が立地する強みを生かし、箱崎地区住民が安心して暮らせるよう更なる**医療・福祉施設の誘導**を図り、それらと連携した快適な住環境を創出を目指します。

3) 交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

都心部への交通アクセスの良さや生活利便施設の集積などのポテンシャルを生かした**快適な居住環境の創出**を目指します。

【修正案】赤字が修正箇所

方針
2

九州大学が存在した地として、
**充実した教育・研究の環境を生みだし、
人を育てる**

教育・研究

九州の最高学府「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関**や生涯教育の場の導入**」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、**充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる**まちを目指します。

1) 教育・研究の場としての新たな高等教育・研究機関の導入

九州大学が100年存在した教育や知の拠点としての経緯を踏まえ、**新たな高等教育・研究機関や生涯教育の場を導入し**、社会を牽引する個性と創造性の富んだ人材を育成する場として継承を目指します。

○教育・人材育成機能

- ・大学等の高等教育機関
- ・初等から中等教育が連携した小中及び中高一貫校
- ・**市民の生涯教育の場** など

○研究・開発機能

(略)

【修正案】赤字が修正箇所

方針
3

高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、
安全・安心・快適で健やかに暮らす

安全・安心
・健やか

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、「防災活動の場の創出」「医療・福祉・健康づくり環境の充実」「快適な居住環境の創出」を進め、**だれもが安全・安心・快適で健やかに暮らす**ことができるまちを目指します。

2) 九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実

周辺に九州大学病院等の高度医療施設が立地する強みを生かし、**箱崎地区住民だれも**が安心して暮らせるよう更なる**医療・福祉施設の誘導**を図り、それらと連携した快適な住環境を創出を目指します。

3) 交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

都心部への交通アクセスの良さや生活利便施設の集積などのポテンシャルを生かし**た**、**だれもが快適に暮居住できる環境**の創出を目指します。

まちづくりの方針案（案）への意見募集について

導入施設などに関する意見要旨(56件)

【今後、実現の可能性等を踏まえながら、まちづくりの参考とする意見】

方針1(成長・活力・交流)への意見

〔1〕新たな産業・雇用の場の創出に関する意見(4件)

1	一大テーマパークのようなスーパー・モール郡を作りたいです。(鳥栖プレミアムアウトレットのようなものか、久山のトリアスのようなもの)そこでは、高齢者も和むことができ、くつろぐことができ、図書館など最新の施設や設備が整っており、「行きたいな」と思わせる吸引力のある場所。商店街なども設けられており、地元の昔からのお店も守られる。地域密着型で、地元で採れた新鮮な野菜などもあり、観光客も地元の人々も楽しめる空間。
2	商業施設の建設には反対。
3	大型商業施設等は絶対建てないでください。
4	当面不要と思われる施設:商業施設→お店は市場原理に任せる。

〔2〕立地特性を生かした広域連携拠点づくりに関する意見(1件)

5	国のバックアップ機能に加え、国会図書館の九州拠点として備えてほしい。
---	------------------------------------

〔3〕文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出に関する意見(12件)

6	歴史的建物遺産群の保存を行い、新たに建設する施設についてもロケセットとしても活用できるような構造とするなど、今後もロケが行われることを前提に、敷地内道路を含む周辺の開発に配慮いただきたい。
7	映画・ドラマ等撮影もできる、映画村ならぬ「バーチャル村」を作り、国内外から制作・撮影の現場を呼び込む。また、それ(撮影)を一般公開し(制作上極秘を除く)撮影があってもなくても集客できるスタイルで営業する。
8	アニメテーマパークの設立。
9	サッカーのアビスパ福岡とホンダFCとの統合チームを作り、その本拠地スタジアムをつくと最高だと思います。
10	当面不要と思われる施設:スポーツレク施設→市は既に整備されていると思う。
11	図書館や美術館も公共交通機関の便利な箱崎へ。
12	国際こども図書館の誘致。
13	国会図書館の九州拠点として備えてほしい。
14	県立美術館の箱崎地区への移転。
15	公園と現代美術館を作ってほしい。
16	箱崎1000年の歴史・文化と近年箱崎にみられる新たな文化・芸術を許容できる施設の導入。より学生のエネルギーを地域に発信する場所を創出したい。九州大学の50周年記念講堂を中心にそれら児童、生徒、学生が活発に地域に関わる"場"、それぞれの関係が築ける"場"があると良いと思う。
17	演劇・ダンス専用劇場を拠点文化施設として作ってほしい。

方針2(教育・研究)への意見

〔1〕新たな教育・研究機関の導入に関する意見(10件)

1	社会人経験者向け大学及び大学院の設立。
2	九大も箱崎サテライトキャンパス(九大図書館分室付き)を現九大本部のようにシンボリックな建物に入居させ、上記の入居者との連携や地域に対する公開講座、九大の人社系のフィールドワーク等の拠点としての役割を担わせる。
3	九州大学病院の高度医療技術をアジア諸国の方々に指導教育する施設の誘致。
4	『アジア少数民族交流大学』を設置。
5	当面不要と思われる施設:単科大学→急激な少子化で魅力なし。
6	学内外発のベンチャー企業及び学内外の研究者(分野を問わず)用のオフィスや研究室を設置。
7	現状の日本を踏まえて「九州大学防災研究センター」、「九州大学自然災害情報ネットワークステーション」中心として防災研究世界一の優れた研究施設を設置してはどうかと思います。
8	製薬系、あるいは化学系分野に関連した工場及び研究施設の誘致・創設。
9	環境問題、防災問題を日本だけでなく、アジア・世界に貢献できる研究施設。
10	俳優、演出家、劇作家、舞台スタッフ、演劇制作者を育成するための演劇学校を設立してほしい。

〔2〕これまでの外国人留学生、研究者等の受け入れ環境の活用に関する意見(1件)

11	アジア重視の各国の相談窓口センター→賛成
----	----------------------

方針3(安全・安心・健やか)への意見

〔1〕災害に対応できる防災活動の場の創出に関する意見(10件)

1	全国一の規模と内容を有する総合防災拠点(防災公園)を10ヶ年計画で整備すべきである。
2	通常は緑の多い公園として、災害時には大規模避難と救援基地として整備する。
3	防災ステーションの導入。
4	万一の場合の多くの市民が避難できる施設等にする。
5	防災公園の地上部は県庁や県警、消防の非常時総合指令センター設置にとどめ、原則として広域避難公園としての性格を重視。民生支援に特化した「ふくおか総合防災研究所(仮称)」を国の支援を得て設立。
6	避難訓練ができる施設=緊急時の備品や設備の配置。
7	当面不要と思われる施設:防災センター→福岡は災害に強いので他都市に任せる。
8	国の緊急対応のサーバー基地を誘致する。
9	首都震災時の政府代替機能→賛成
10	なんで首都のバックアップ都市に成り下がらなければならないのですか。

〔2〕九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実に関する意見(3件)

11	跡地の3分の2は、不足しています保育所及び高齢者入居施設に用いられるよう希望します。
12	九大病院連携によるヘルスケア施設。
13	九州大学の貝塚グラウンドを利用した運動もできる公園が欲しい。

〔3〕交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出に関する意見(12件)

14	子育て支援施設があればよいと思う。
15	子育て施設の充実(まっぼっくり保育園は残してほしい)。
16	いろいろな年齢の人が何をしてもなく集まれる「居場所」をつくってください。
17	川崎夢パークのような思い切った施設を作ったら、若い人や子育て中の人をはじめ多くの人が住みやすい箱崎になる。
18	いろいろな年代の方がゆったりと集まれる居場所をつくってください。自然を利用した「川崎夢パーク」のような遊び場をつくってください。
19	29万区民の区役所としては現在の区役所では手狭であり、今後の拡張は不可能。国道側(文系地区)に移転。
20	東区役所と箱崎中学校は「ふくおか総合防災研究所(仮称)」付近に移転。
21	箱崎中学校の移転。
22	箱崎中学校を(文系地区)に移転。
23	多々良川近くの地区端部に偏在を余儀なくされている中学校の位置変更は不可欠。
24	アクセス(地下鉄、国道3号線)利便性→住居の立地。
25	マンションの建設には反対。

方針5(環境・エネルギー)への意見

〔2〕水や資源を生かすまちの創造に関する意見(1件)

1	堆肥作りをする場所とプラスチック、金属を含む燃えないゴミも住民が自ら、分別し資源として循環させるステーションを九州大学跡地に配置して頂きたい
---	------------------------------------------------------------------------

〔3〕箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造に関する意見(2件)

2	空港直下の東南部における広い緑地帯→賛成
3	<6年まちになる貝塚公園の計画について>地下鉄の見えるすばらしい交通公園であり、四季のすばらしさについても都市の中にあつて、子育て中の忙しい世代にとっては貴重な場所でもあります。この強みを生かして、6年まちにしない活用企画を具体化して頂きたい。

導入機能の検討について

－ 民間アンケート調査結果について －

民間アンケート調査結果について

■ アンケート調査の概要

【調査の趣旨・目的】

- これまでの委員会において、教育研究施設や医療・福祉施設の誘致に関する意見、また、導入機能における事業性・持続性の検証等に関する意見などが出されていたことを踏まえ、民間企業、社会福祉法人、学校法人など、実際に、箱崎キャンパス跡地のまちづくりの担い手となる事業者へ意向確認等を実施することを目的として実施した。
- また、同時に、箱崎キャンパス跡地のポテンシャル並びに 民間企業/機関における実際の需要動向の把握・確認も行った。
- 意向確認等の方法として、今回は、集計結果以外の個別企業/機関にかかる情報については公表しないことを前提に、記名式のアンケート調査という方法を採用。
- 対象企業/機関としては、「まちづくりの方針（案）」に沿った企業/機関を中心に選定（右参照）した。また、公共機関の意向確認等については、随時調査中であるため、今回は、民間の企業/機関のみを対象とした。

【実施主体】

国立大学法人九州大学

【調査委託先】

独立行政法人都市再生機構 九州支社

【主な調査項目】

- 事業展開等に伴う土地・施設等の需要確認
- 箱崎キャンパス跡地進出の可能性調査、箱崎地区の魅力把握
- 将来ビジョン検討委員会の認知度調査
- まちづくり方針(案)への期待度調査、検討中の導入機能の需要確認
- その他意見・要望等

※委員会参考資料に「アンケート調査票」を掲載

【調査期間】

平成24年9月24日（月）～ 平成24年10月10日（水）

【調査対象企業/機関 及び 回答状況】

○対象企業/機関 314社/機関

<方針1 ～成長・活力・交流>より

新産業創造	21社/機関
業務商業	23社/機関
コンベンション分野	15社/機関
スポーツ・交流・文化発信	17社/機関

<方針2 ～教育・研究>より

教育・人材育成	93社/機関
研究・開発	3社/機関
留学生等支援	3社/機関

<方針3 ～安全・安心・健やか>より

医療・福祉	19社/機関
生活利便	30社/機関
居住機能	28社/機関

<方針5 ～環境・エネルギー>より

環境・エネルギー	13社/機関
----------	--------

<その他>

不動産・建設	20社/機関
金融関係	29社/機関

【回答状況】

○回答数53社/機関 (回収率17%)

新産業創造	1社/機関
業務商業	3社/機関

教育・人材育成	22社/機関
---------	--------

医療・福祉	3社/機関
生活利便	2社/機関
居住機能	4社/機関

環境・エネルギー	1社/機関
----------	-------

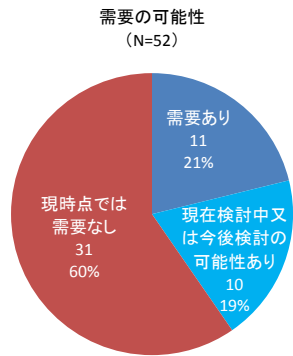
不動産・建設	10社/機関
金融関係	7社/機関

民間アンケート調査結果について

■アンケート調査の結果 ～箱崎地区への需要調査

(事業展開に伴う土地・施設等の需要)

貴社／貴法人における事業等のご展開(新店舗設置、店舗統合、新事業所設置、事業所統合、新施設設置、施設統合、本社／事務局移設、支店／部局開設、開発素地の取得など)に伴う**土地・施設需要**や**投融資の需要**についてお答えください。

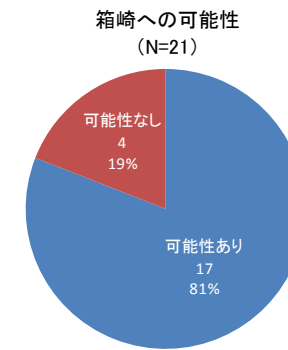


「需要あり」と「現在検討中又は今後検討の可能性あり」を併せると**21社/機関**で、**回答企業/機関の約40%**。

注:回答した53企業/機関すべてが対象 (不明企業/機関が1有り)

(箱崎キャンパス跡地における土地・施設等の需要)

箱崎キャンパス跡地での貴社／貴法人の土地・施設需要や投融資の需要の可能性についてどのようにお考えかお答えください。



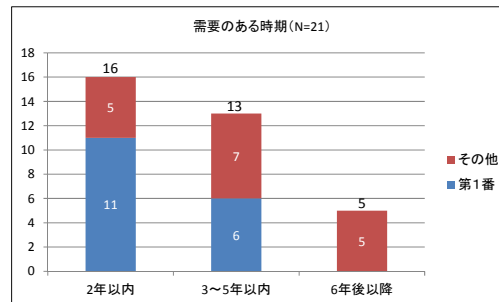
箱崎への「可能性あり」が**17社/機関**、**81%**。

注:「需要あり」、「今後検討の可能性あり」と回答した21企業/機関が対象

(需要時期・エリア)

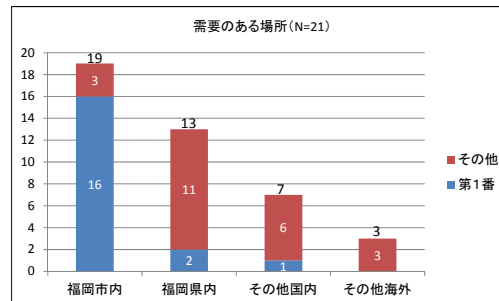
ご需要のある時期及びエリアについてお答えください。(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(いくつでも))

①時期

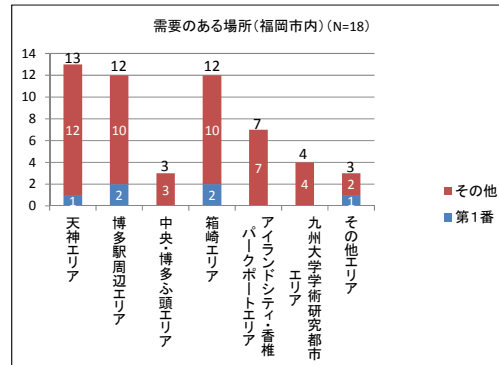


需要時期としては、「2年以内」が約50%「3~5年以内」が約40%と**早期の需要**が多い。

②場所



③場所(福岡市内の場合、更に詳しく)

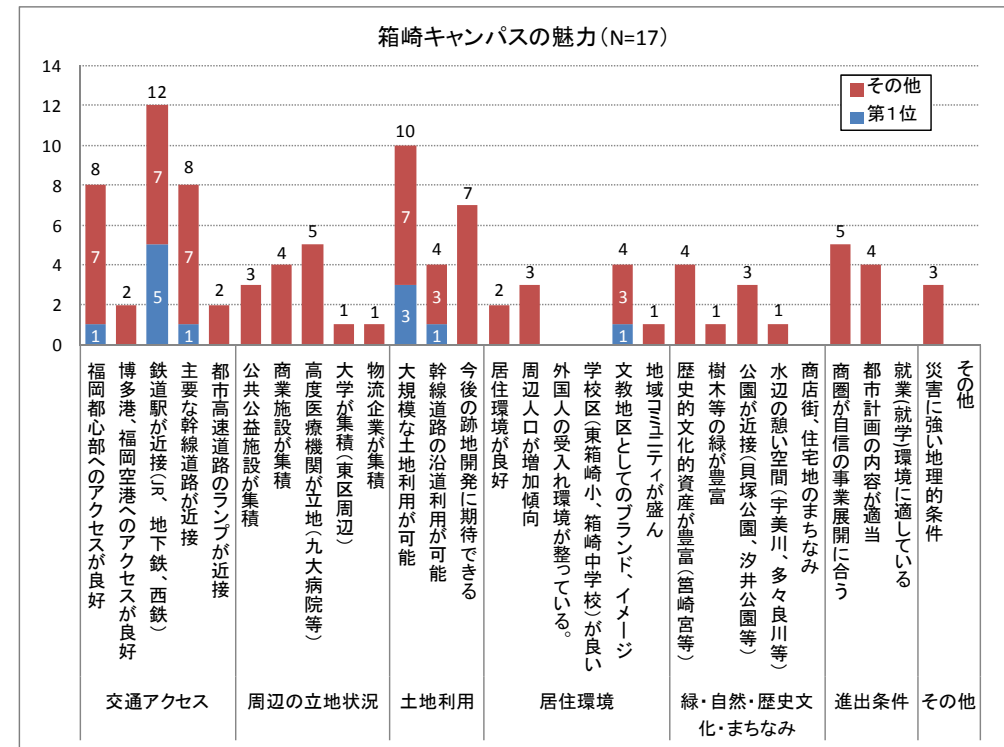


需要場所としては福岡市内が一番多く、中でも、天神、博多駅、**箱崎地区**を検討している企業/機関が多い。

注:「需要あり」、「今後検討の可能性あり」と回答した21企業/機関が対象

(箱崎の魅力)

箱崎キャンパス跡地のどのようなところに魅力を感じましたか。以下の項目からお答え下さい。(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(合計3つまで))



「鉄道駅が近接」、「大規模な土地利用が可能」、「主要な幹線道路が近接」及び「福岡都心部へのアクセスが良好」の件数が多い

注:「箱崎地区への可能性あり」と回答した17企業/機関が対象

民間アンケート調査結果について

■ アンケート調査の結果 ～箱崎地区への需要調査（続き）

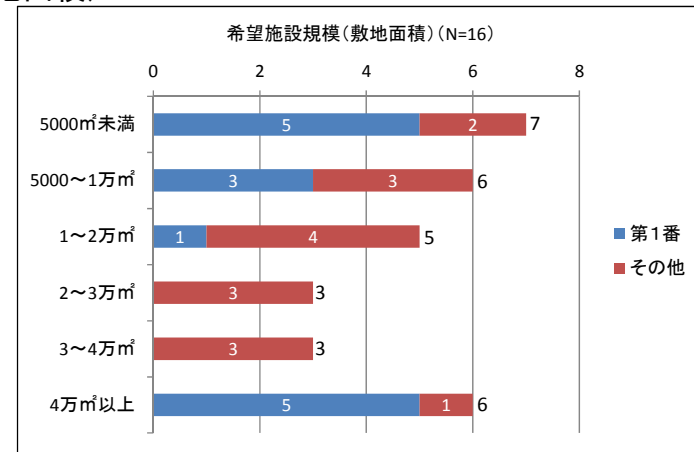
（希望敷地面積・用途・位置）

貴社／貴法人の希望または想定する敷地規模、用途及び位置についてお答えください。（1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。（いくつかでも）

注：「箱崎地区への可能性あり」と回答した17企業/機関が対象

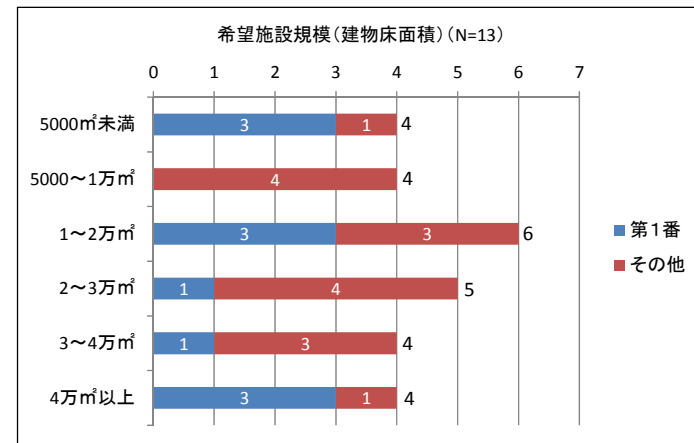
①希望施設規模

（敷地面積）

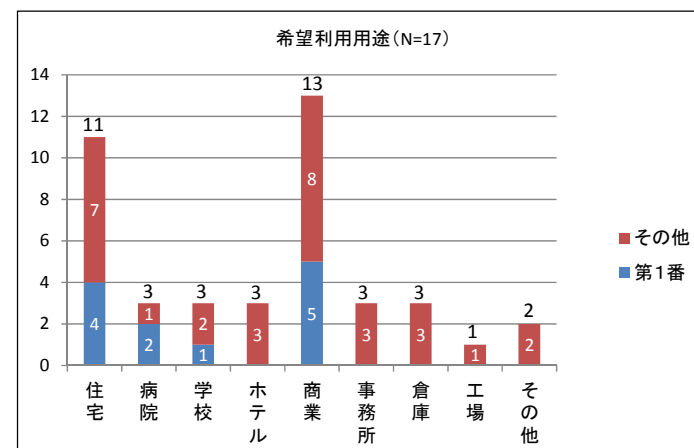


敷地面積需要は1万㎡以下が半数を占めているが4万㎡以上も多い。
床面積はまんべんなく需要がみられる。

（建物床面積）

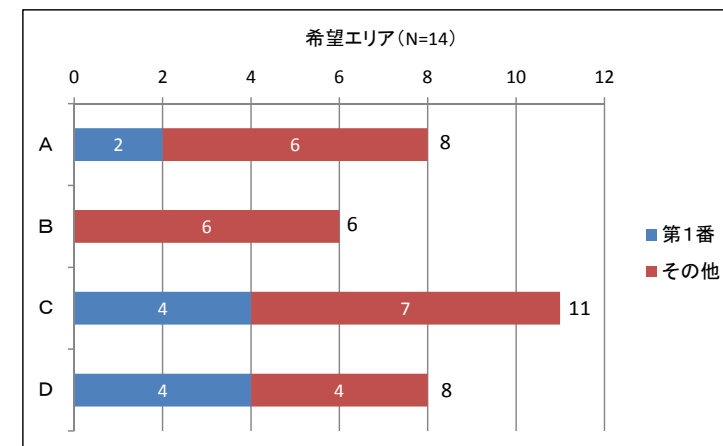
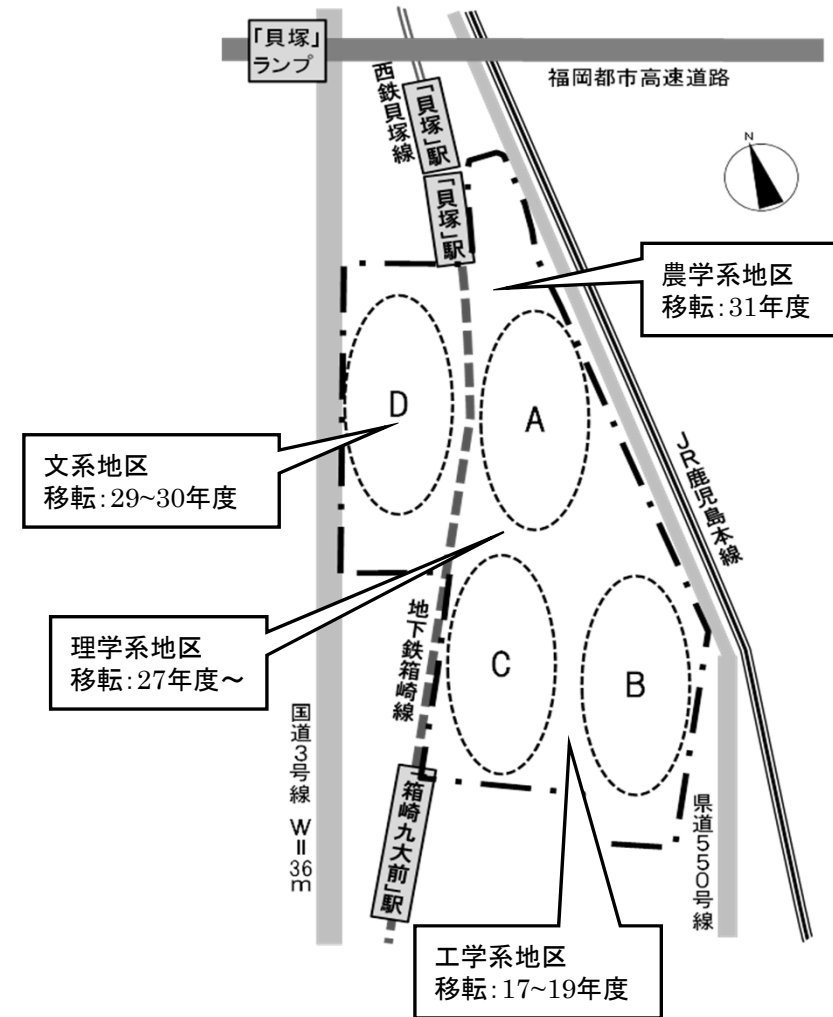


②希望利用用途



希望利用用途は商業と住宅の割合が高いが、その他の用途にも需要がみられる。

③希望エリア



希望エリアは「C」が高いが、その他エリアにも需要がみられる。

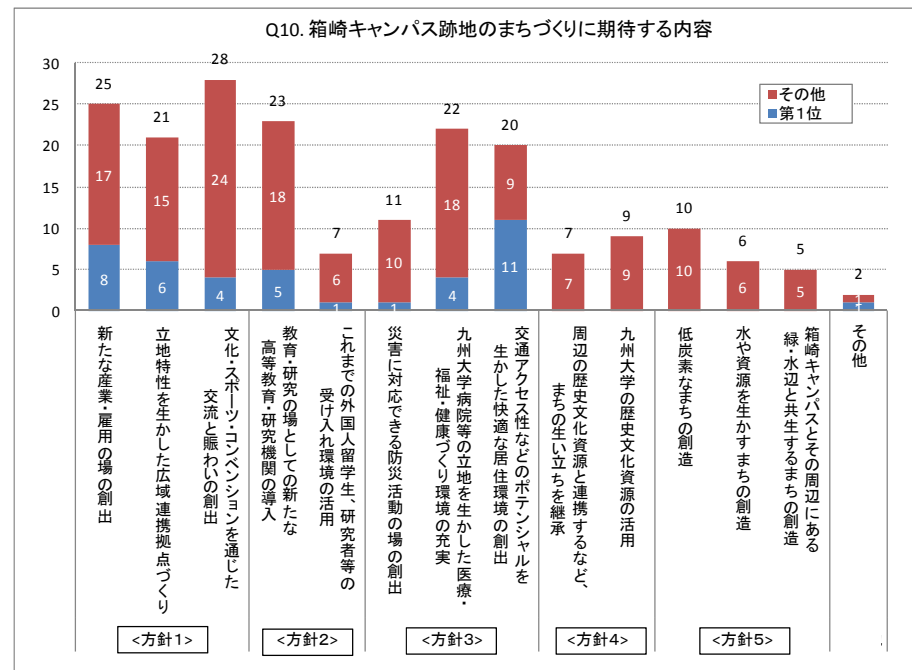
民間アンケート調査結果について

■ アンケート調査の結果 ～将来ビジョン検討委員会に関する調査

注：アンケートに回答した53企業/機関すべてが対象
(一部未回答有り)

(まちづくりの方針への期待)

将来ビジョン検討委員会では、5つのまちづくりの方針(案)とそれに伴う以下13項目の方向性を示していますが、**箱崎キャンパス跡地のまちづくりに関してどの項目に期待しますか。**添付の参考資料もご参照のうえお答え下さい。(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(合計5つまで))



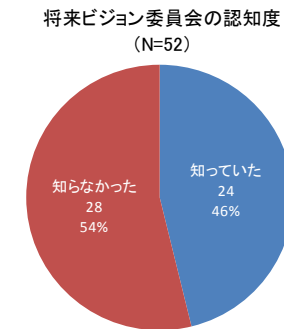
第1位では「居住環境の創出」への期待が高い。

全体(第1位+その他)では、「交流と賑わいの創出」、「新たな産業・雇用の場の創出」、「高等教育・研究機関の導入」への期待が高い。

総じて、方針1~3への期待が高い

(委員会認知度)

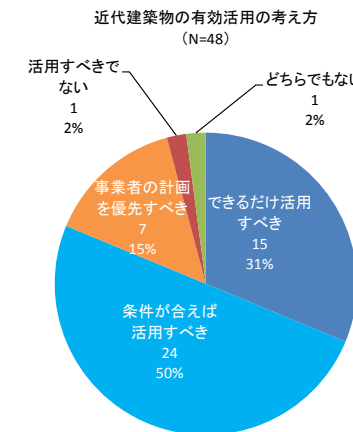
将来ビジョン検討委員会が開催されていることはご存知でしたか。



委員会の認知度は46%

(近代建築物の有効活用)

箱崎キャンパスには大正時代などに建てられた近代建築物が残っており、将来ビジョン検討委員会では、その保存などについても検討していますが、**近代建築物の有効活用の考え方について貴社/貴法人のお考えに最も近いものをお答えください。**

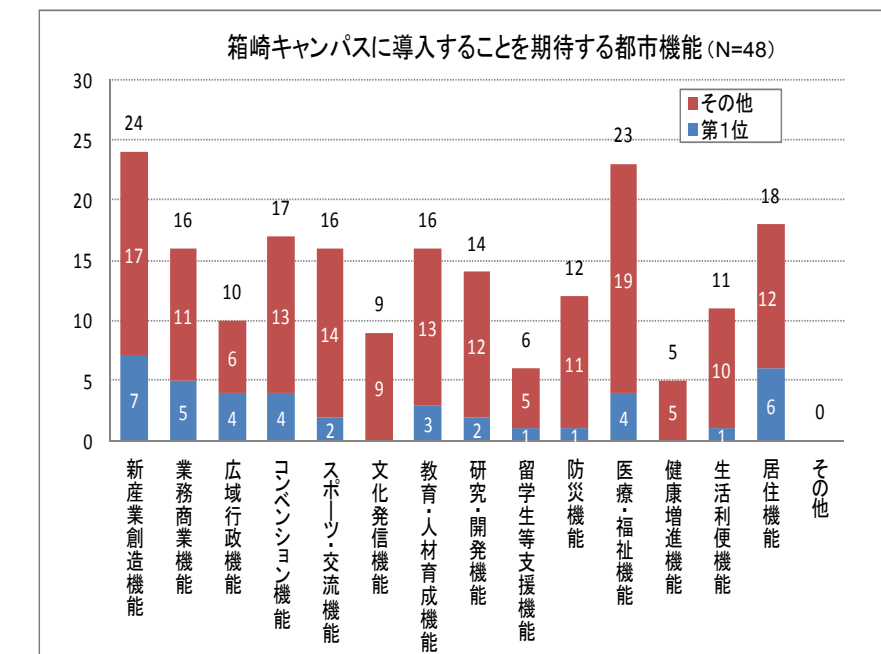


「できるだけ活用すべき」という考え方が31%、「条件が合えば活用すべき」が50%。

「活用すべきでない」という考え方は少数。

(望まれる導入機能)

箱崎キャンパス跡地には、**どのような都市機能が導入されることを望まれますか。**添付の参考資料もご参照のうえ、お答えください。(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(合計5つまで))



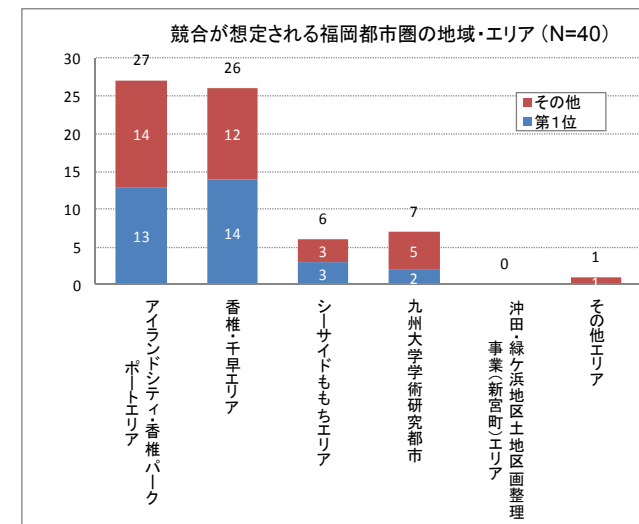
第1位では「新産業創造機能」、「居住機能」への希望が高い。

全体(第1位+その他)では、「新産業創造機能」、「医療・福祉機能」への希望が高い。

総じて、偏りなく様々な都市機能の導入が望まれている。

(箱崎地区との競合エリア)

箱崎キャンパス跡地と競合が想定される福岡都市圏の地域・エリアはどこだと思われますか。(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(合計2つまで))



箱崎地区に近い地域・エリアである「アイランドシティ・香椎パークポートエリア」や「香椎・千早エリア」を競合エリアと考える企業/機関が多い。

民間アンケート調査結果について

■ アンケート調査の結果 ～自由意見・要望

(自由意見・要望)

箱崎キャンパス跡地の土地活用やまちづくり全般に関し、**ご意見・ご要望等**がございましたら、**ご自由にご記入ください。**

【まちづくり方針・土地利用計画・都市計画に関するもの】

(立地特性を活かした街づくり)

- ・立地特性を活かした街づくり、将来福岡県が向うビジョンに沿った街づくりを実現してほしい。

(テーマの絞り込みが必要)

- ・様々な用途をもっともらしくゾーニングするのではなく、あるテーマ(先端技術、医療など)をもって、イメージを膨らませてほしい(最終的には、それだけでは43haの土地を埋め切れるとは思っていないが、最初は大きなストーリーから入ってほしい)。

(災害対応、環境配慮は当然の姿勢)

- ・箱崎キャンパス跡地の計画において、検討委員会で示されている13項目の方向性はいずれも重要な視点と考えている。その中で、3.11以降、意識の高い災害対応や環境に配慮した低炭素なまちづくりは、既に社会的な基盤施設として当然の取組姿勢である。弊社としては、キャンパス跡地利用が従来の大規模空地開発に散見されるようなハコモノ施設を中心とした切り貼りに陥ることのないよう、跡地利用を一体的・総合的なまちづくりに取り組む必要があると考えている。

(次世代への発展を考慮、海外・県外からの企業参入の促進)

- ・移転に伴い、箱崎キャンパス周辺の住環境や商業、雇用の変化が生まれると思うが、ぜひ次の発展につながるような土地活用、または街づくりに期待している。箱崎キャンパス周辺の住民や中小企業にとってプラスとなる再開発は必至だと思うが、海外または福岡以外の企業にとって参入しやすい街づくり、都市計画が求められると思う。今後の発展に期待している。

(特区等の規制緩和を希望)

- ・道路、鉄道の交通アクセスに恵まれ、また、海(博多港国際ターミナル)、空(福岡空港)の国内外の玄関口との間に位置する希少性の高い広大な立地は、十分に未来型都市の形成にふさわしい可能性を秘めていると期待している。福岡都市圏のみならず、九州圏、アジアを意識した国際競争力を打ち出す日本の都市機能の一部を担う、一体的かつ特別自治区的(経済特区等)な土地利用計画を望む。段階移転になるので、民間開発エリアと公共・公益的エリアを中、長期的にコントロールしていく都市計画を実現してほしいと考える。

(用途変更の検討が必要)

- ・都市計画マスタープランの改定については、六本松キャンパス跡地の様に用途地域の変更(住居系から商業系へ)も検討いただきたい。

【導入機能に関するもの】

(リーディングプロジェクトの選定と成功が重要)

- ・まず最初に実施されるリーディングプロジェクトをどのような事業とするかという点と、それが成功するかが非常に重要と考える。ある程度の優遇策を講じてインパクトがあり、その先の開発につながるものを誘致すべきと考える。官民一体となり、誘致の為の施策を明示することが望まれる。

(九州の首都機能の呼び込み)

- ・移動手段の高速化で九州が一体化し、「県」という行政機能が寿命を迎えつつある今、道州制に対応するためにまとまった土地を確保しておくことが、福岡ひいては九州全体にとって死活的に重要である。投資ビジネスの見地からしても現状の大して魅力のない土地で中途半端な開発をするのではなく、ここに九州の首都機能を呼び込むことで福岡という町を活性化させ、世界の投資家をひきつける原動力にする方がはるかにおもしろいと思う。従って、売却や小分割しての利用には反対である。

(首都機能移転の優先検討)

- ・首都機能移転にかかる議論も始まっており、福岡の天災等の影響の優位性を考えるとプライオリティの高い議論かと考えている。

【その他の意見・要望】

(アジアの中心地としての発展)

- ・福岡がアジアの中心地として発展するために、箱崎キャンパスが有効活用されることを望んでいる。

(処分のステップの組み立てが重要)

- ・長期間の事業であることから、再整備の将来ビジョンと共に、処分のステップ(スケジュール、方法)の組み立てが重要になると思われる。

(道路整備が必要)

- ・商業施設等を想定した時に道路状況が脆弱なため、開発区域内外の道路整備が必要と思われる。

(地元企業の参入への配慮)

- ・東京資本の大企業のみ企画だけでなく、地元企業について小規模ながら合同して参画出来る形を取られれば良いかと思う。

(全体意見)

- ・街づくりにあたってのコンセプトの明確化。需要者のニーズにあったゾーニングと価格設定。早い段階での公的機関との協力体制の構築。

■ アンケート調査結果のまとめ

- 回答企業/機関に限れば、総じて箱崎キャンパスへの関心度は高く、箱崎地区のポテンシャルが再確認された結果となっている。
- 箱崎地区の魅力としては、交通アクセスの充実や大規模な跡地利用となることなどが評価されている。
- まちづくり方針(案)については、「新たな産業・雇用の場の創出」「交流と賑わいの創出」「新たな高等教育・研究機関の導入」など、まちづくり方針(案)1～3までの内容に関する期待が高い。
- 将来ビジョン検討委員会で検討されている導入機能について、万遍無くどの機能も期待されている。中でも、「新産業創造機能」「医療・福祉機能」などへの期待が高い。

都市基盤及び空間構成の考え方について

まちづくりの方針

- 方針 福岡市の持続的な成長に資する
- 1 新たな活力・交流を生み出す
- 方針 九州大学が存在した地として、
- 2 充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる
- 方針 高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、
- 3 安全・安心・快適で健やかに暮らす
- 方針 千年のまち、大学百年の
- 4 歴史文化資源を大切にする
- 方針 次世代の環境技術と豊かな緑を生かして
- 5 環境と共生し、持続可能なまちをつくる

地区の優位性と課題、上位計画・関連施策、委員会意見等

- 工学部本館等の近代建築物の保存・活用（委員会意見）
- 地域の貴重な緑の空間（優位性）
- 現有の緑（樹木等）の保全・活用（委員会意見）
- 事業性の確保、統合移転の円滑な推進（委員会意見）
- 水辺と緑のある空間（優位性）
- 宮崎宮をはじめ歴史的・文化的な地域資産を有す（優位性）など
- 地下鉄、J R、西鉄の駅があり交通至便地（優位性）
- 公共交通の拠点性強化が必要（委員会意見）
- 博多港、福岡空港、高速道路等をつなぐ主要な物流動線が近接（優位性）
- キャンパスの東西をつなぐ幹線道路が不足（課題）
- 地下鉄地上部によりキャンパス敷地が分断（課題）など
- 「ユニバーサル都市・福岡」の実現（上位計画）
- 施設が老朽化した貝塚公園（課題）
- キャンパス南側は、街区公園、近隣公園が不足気味（課題）など
- 福岡都心部に近く、大規模な土地利用が可能（優位性）
- 九州の最高学府が存在した地としての「プラント」（優位性）
- 「福岡市景観計画」を平成24年度に施行予定（上位計画）
- 一体的利用の促進（委員会意見）
- 快適に歩ける歩行者動線の確保（委員会意見）など
- 工学部本館等の近代建築物の保存・活用（委員会意見）：再掲
- 地域の貴重な緑の空間（優位性）：再掲
- 現有の緑（樹木等）の保全・活用（委員会意見）：再掲
- キャンパス南側は、街区公園、近隣公園が不足気味（課題）：再掲
- 九州の最高学府が存在した地としての「プラント」（優位性）：再掲
- 50年後、100年後に向けたまちづくりの推進（委員会意見）
- 持続的なまちづくりの推進（委員会意見）
- など

都市基盤・空間構成検討の視点（P13）

- 既存施設・魅力資源を活かす
 - ①既存樹木の活用
 - ②歴史文化資源の活用
 - ③既存通路の活用
 - ④既存ライフライン等の活用
 - ⑤水辺空間とのつながりづくりの推進
 - ⑥周辺の歴史・文化資源とのつながりづくりの推進
- まち全体の交通利便性を高める
 - ⑦貝塚駅の利便性向上
 - ⑧東西市街地を結ぶ動線の確保
 - ⑨箱崎九大前駅周辺における「顔」づくりの推進
 - ⑩箱崎駅とのつながりづくりの推進
 - ⑪バス利便性の向上
- 新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる
 - ⑫誰もが安心して暮らせるまちの実現
 - ⑬貝塚公園の活用検討
 - ⑭公園の確保
- まち全体の一体感を創出する
 - ⑮統一感のある街並みの形成
 - ⑯歩行者動線、緑などの連続性の確保
- 「大学100年の歴史と緑」を活かす
 - ⑰既存樹木の活用：再掲
 - ⑱歴史文化資源の活用：再掲
 - ⑲公園の確保：再掲
- 「100年後の未来に誇れるまち」をめざす
 - ⑳まちづくりルールの策定
 - ㉑持続的なまちづくりの推進

土地利用ゾーニングの考え方（P16）

基本的な考え方

- 多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する（委員会意見等、空間構成の考え方）
- 周辺地域と調和・連携する（委員会意見等）

- 「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン
- 九州大学の「教育・研究」環境を継承し、箱崎のまちが持つ「歴史・文化」資源を活かすゾーン
- 「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン
- 「環境」と共生し、再生「エネルギー」を積極的に活用する

都市基盤の考え方（P14）

1. 既存施設・魅力資源を活かす
 - 1) 既存通路の活用
 - 2) 既存樹木の活用
 - 3) 既存施設を活かした供給処理施設整備
 - 4) 歴史・文化資源と箱崎キャンパスを結ぶ空間づくり
 - 5) 宇美川と箱崎キャンパスを結ぶ空間づくり
 - 6) 箱崎駅と箱崎キャンパスを結ぶ空間づくり
2. まち全体の交通利便性を高める
 - 7) 東西道路の整備
 - 8) 必要に応じた道路整備
 - 9) 緑豊かな歩行者・自転車空間整備
 - 10) 憩い・交流空間づくり
 - 11) 貝塚駅周辺の再整備検討
 - 12) バス利便性向上への取り組み
3. 新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる
 - 13) 適正規模な公園整備
 - 14) 貝塚公園の活用方法検討
 - 15) 供給処理施設整備の検討

空間構成の考え方（P15）

1. まち全体の一体感を創出する
 - 1・2) 統一感のある街並み景観の誘導
 - 3・4) 一体的な街角空間の形成
 - 5) 敷地内等における歩行者空間確保
 - 6) 歩行者動線の連続性確保
 - 7) 歩いて楽しめる歩道空間づくり
 - 8) オープンスペースの確保
 - 9) セットバックによるオープンスペースの確保
 - 10) 敷地内における緑化推進
 - 11) 一体的機能の誘導
2. 「大学100年の歴史と緑」を活かす
 - 12) 既存樹木の活用
 - 13) 新たな公園・緑地の整備
 - 14) 歴史文化資源の活用
 - 15) 大学の面影・記憶の保存
 - 16) 大学の面影・記憶をつなぐ・たどる
3. 「100年後の未来に誇れるまち」をめざす
 - 17・18) まちづくりルールの策定
 - 19) 持続的なまちづくり運営

※上記の「地区の優位性と課題、上位計画・関連施策、委員会意見等」については、「都市基盤・空間構成」にかかわる項目のみを整理している

都市基盤検討の視点

■既存施設・魅力資源を活かす

①既存樹木の活用（委員会意見等、まちづくり方針5）

・まちづくり方針5：次世代の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる-3)箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

②歴史文化資源の活用（委員会意見等、まちづくり方針4）

・まちづくりの方針4：千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にす-2)九州大学の歴史文化資源の活用を検討

③既存通路の活用（委員会意見等）

・箱崎キャンパス内の既存通路などを有効に活用することが、大学の面影継承、早期の都市基盤整備及びまちづくりの推進などにつながる。

④既存ライフライン等の活用（委員会意見等）

・箱崎キャンパス内の既存ライフラインを活かした供給処理施設等の整備を進めることが、早期の都市基盤整備及びまちづくりの推進などにつながる。

⑤水辺空間とのつながりづくりの推進（まちづくり方針5）

・まちづくり方針5：次世代の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる-3)箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

⑥周辺の歴史・文化資源とのつながりづくりの推進（まちづくり方針4）

・まちづくりの方針4：千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にす-1)周辺の歴史文化資源と連携するなど、まちの生い立ちを継承

■まち全体の交通利便性を高める

⑦貝塚駅の利便性向上（優位性・課題等）

・貝塚駅の交通結節機能の強化、乗り継ぎ利便性の向上などを進めることが、居住者、働く人、訪れる人などの公共交通利便性をさらに高めることにつながる。

⑧東西市街地を結ぶ動線の確保（優位性・課題等）

・箱崎キャンパスや地下鉄地上部による東西市街地の分断を解消するための東西動線の確保が、周辺地区も含めたまち全体の利便性を向上させることにつながる。

⑨箱崎九大前駅周辺における「顔」づくりの推進（優位性・課題等）

・ゲート駅にふさわしい「顔」となる空間形成を進めることが、箱崎キャンパスの更なる魅力向上につながる

⑩箱崎駅とのつながりづくりの推進（優位性・課題等）

・JR箱崎駅と箱崎キャンパスをよりわかりやすくつなぐことが、博多駅方面から訪れる人の利便性向上につながる。

⑪バス利便性の向上（優位性・課題等）

・鉄道だけでなく、跡地利用に併せたバス利便性向上等の検討を進めることが、居住者、働く人、訪れる人等の公共交通利便性をさらに高めることにつながる。

■新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる

⑫誰もが安心して暮らせるまちの実現（優位性・課題等）

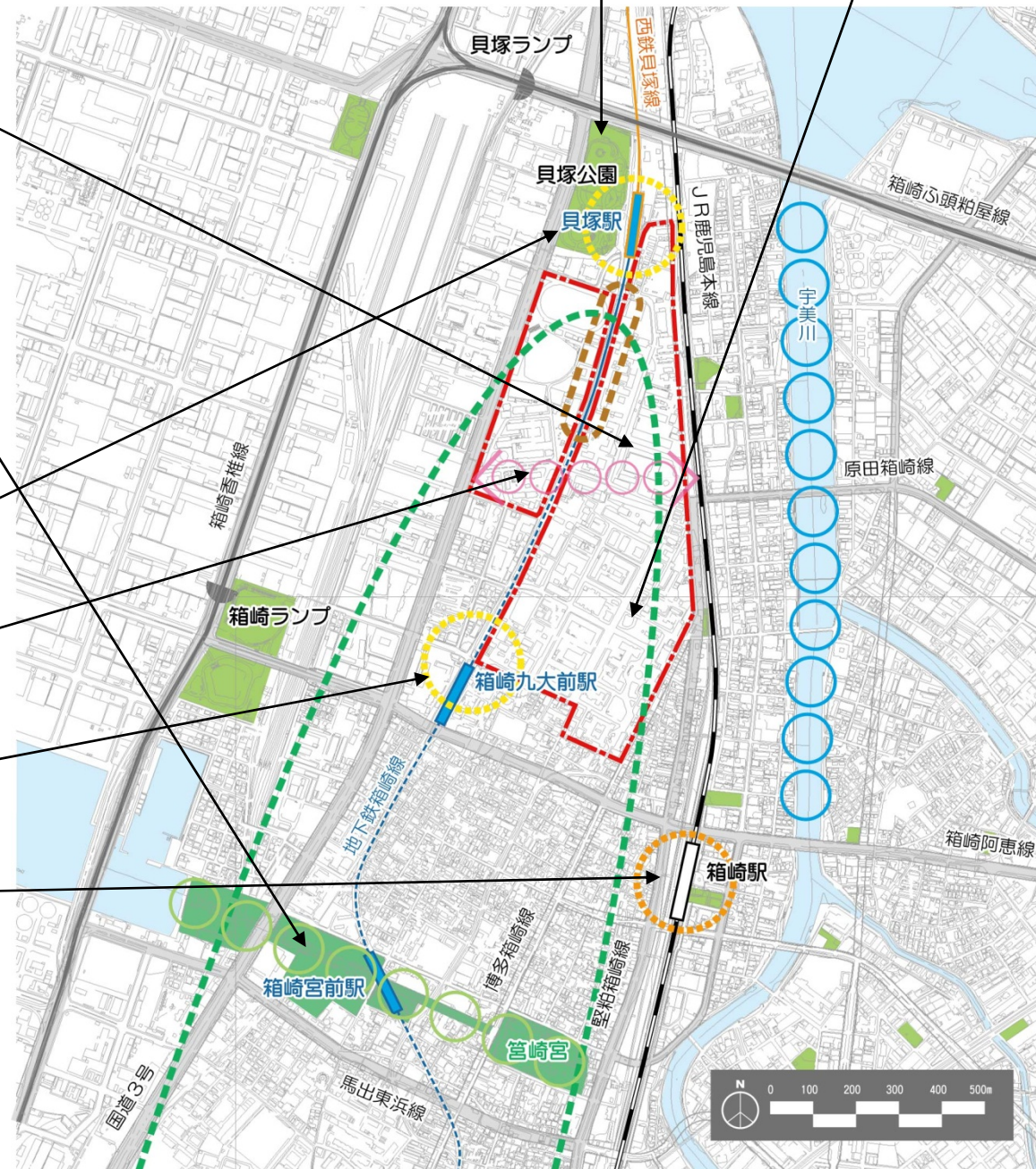
・福岡市が目標像として掲げている「ユニバーサル都市・福岡」の考え方に基づいたまちづくりを進めることが、「誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち」の実現につながる。

⑬貝塚公園の活用検討（優位性・課題等）

・公園内施設の老朽化（再整備時期）、視認性の確保、アクセス性の向上等が課題となっている貝塚公園について、効果的な活用方法の検討が必要である。

⑭公園の確保（優位性・課題等、委員会意見等）

・箱崎キャンパス内において、適宜公園・緑地等を確保することが、主に箱崎キャンパス南側における公園不足エリアの解消につながる。



空間構成検討の視点

■まち全体の一体感を創出する

⑮統一感のある街並みの形成（優位性・課題等）

・統一感のある街並み形成が、現在の箱崎キャンパスが持つまちの一体感を維持・創出することにつながる。

⑯歩行者動線、緑などの連続性の確保（優位性・課題等、委員会意見等）

・快適な歩行者動線や豊かな緑などの連続性確保が、まち全体の一体感を創出することにつながる。

■「大学100年の歴史と緑」を活かす

⑰既存樹木の活用（再掲）

⑱歴史文化資源の活用（再掲）

⑲公園の確保（再掲）

■「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

⑳まちづくりルールの策定（委員会意見等）

・緑化、オープンスペースの確保等、共通のルールに基づいたまちづくりを進めることが、まちの一体感を創出すると共に、まちの質を高めることにつながる。

㉑持続的なまちづくりの推進（委員会意見等）

・まちづくり運営を持続していくことが、将来的にも魅力的なまちであり続けることにつながる。

□各視点の引用先
 (優位性・課題等) →地区の優位性と課題、上位計画・関連施策など
 (委員会意見等) →これまでの委員会でも出された意見 など
 (まちづくり方針) →まちづくりの方針1~5

都市基盤の考え方について

【基本的な考え方】

1. 既存施設・周辺魅力資源を活かす

- ・箱崎キャンパス内の敷地内道路や緑地空間などの既存施設を活かす。
 - ・宮崎宮などの歴史文化資源、宇美川の水辺環境など、周辺に立地する魅力資源を活かす。
- 「視点①②③④⑤⑥」への対応、「方針4：千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にする」「方針5：九州大学の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる」に基づいた考え方

2. まち全体の交通利便性を高める

- ・歩行者・自転車が快適・安全に利用できる緑豊かな交通ネットワークを充実させることにより、箱崎キャンパス内だけでなく、周辺も含めたまち全体の交通利便性を高める。
 - ・3つの鉄道駅（地下鉄箱崎九大前・貝塚駅、JR箱崎駅）に囲まれた公共交通の利便性を活かす。
- 「視点⑦⑧⑨⑩⑪」への対応

3. 新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる

- ・緑豊かな公園の整備、災害に強いライフラインの整備などにより、箱崎キャンパスで新たに始まる生活・活動の豊かさや安全性を向上させる。
 - ・だれもが安全に安心して生活・活動できるように、都市基盤整備においてユニバーサルデザインの導入を進める。
- 「視点⑫⑬⑭」への対応

1. 既存施設・周辺魅力資源を活かす

【既存施設活用】

- 1) 道路整備については、できるだけ箱崎キャンパス内の既存敷地内通路の活用を検討し、一体的な空間づくりに配慮した整備を行う。
- 2) 箱崎キャンパス内の既存緑地等を活かした公園・緑地整備を進める。
- 3) 箱崎キャンパス内の九州大学が所有する既存インフラ施設の活用も検討しながら、居住者・来街者等の生活・活動を支えるためのライフライン整備を進める。

【周辺施設等を結ぶルートづくり】

- 4) 地区の南側に位置している「宮崎宮」「町家」などの歴史的・文化的な地域資源と箱崎キャンパスを結び、わかりやすく快適に歩ける緑豊かなルートづくりを検討する。
- 5) 既存動線を活かしながら、地区の東側に流れる「宇美川の水辺空間」と緑豊かな箱崎キャンパスを結びつつ、水と緑が豊かで快適に歩けるルートづくりを検討する。
- 6) 箱崎キャンパスから「JR箱崎駅」までのアクセス向上を検討する。

2. まち全体の交通利便性を高める

【道路・歩行者空間整備】

- 7) 箱崎キャンパスによる東西市街地の分断を解消し、周辺地区も含めたまち全体の利便性を向上させるために、東西道路を整備する。
- 8) 各施設への徒歩・自動車などによるアクセス性を高めるために、必要に応じた道路整備を行う。
- 9) 既存の緑を活かしながら、快適に歩ける・走れる、歩行者空間・自転車走行空間を整備する。

【鉄道駅周辺空間づくり】

- 10) 「地下鉄箱崎九大前駅」周辺については、箱崎キャンパス内の駅と隣接する場所において、人が憩い、交流できる空間づくりを検討する。
- 11) 「地下鉄・西鉄貝塚駅」周辺については、バス・自家用車などの更なるアクセス利便性向上に向けた検討を進める。

【バス利便性向上への取り組み】

- 12) 道路整備に併せ、必要に応じて更なるバス利便性の向上を図る。

3. 新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる

【公園整備等】

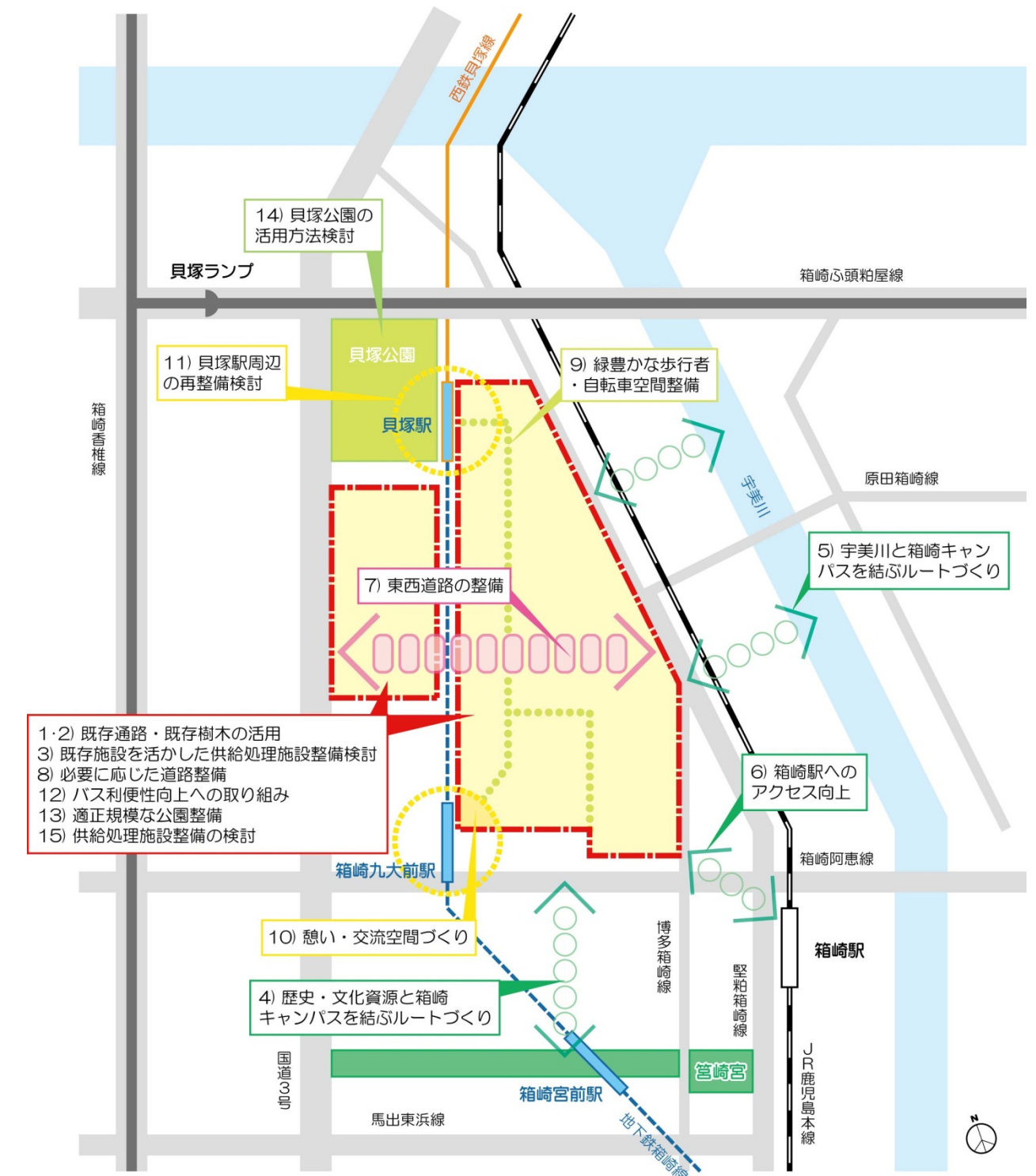
- 13) 周辺地域からの利用にも配慮しながら、災害時にも活用できる公園整備や適正規模の公園整備を進める。
- 14) 「貝塚公園」については、箱崎キャンパスの公園・緑地整備の方向性を検討する中で、効果的な活用方法を検討する。

【供給処理施設整備等】

- 15) 環境に配慮した中水道の活用、景観形成や防災に配慮した電線類の地中化などを検討する。

■都市基盤整備イメージ

※道路・歩行者・自転車空間などの位置等は全てイメージ



空間構成の考え方について

【基本的な考え方】

1. まち全体の一体感を創出する

・統一感のある街並み景観形成や人の出会いや交流を生み出すオープンスペースなどにより、まち全体の一体感を創出する。
→「視点⑮⑯」への対応

2. 「大学100年の歴史と緑」を活かす

・大学100年の歴史と緑を引き継ぎ、その面影と記憶を継承するために、近代建築物や既存樹木などを新たなまちづくりの中でも活かす。
→「視点①②④」への対応、「方針4：千年のまち、大学百年の歴史文化資源を大切にする」「方針5：九州大学の環境技術と豊かな緑を生かして環境と共生し、持続可能なまちをつくる」に基づいた考え方

3. 「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

・地元住民、福岡市、九州大学、事業者など多様な主体が、共通のルールに基づいて持続的にまちづくりに取り組むことによって、100年後の未来においても誇れるまちをめざす。
・「誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち」を実現するために、ユニバーサルデザインの導入を進める。
→「視点⑰⑱」への対応、「上記2つの考え方を実現させる」ための考え方

1. まち全体の一体感を創出する

【街並み景観の誘導】

- 1) 建築物の高さ、デザイン、広告物等の規制などに関するデザインのルールづくりを進め、それらに基づいた統一感のある街並み景観の形成を進める。
- 2) 立花山・三日月山への視線を活かすなど周辺環境に配慮した景観形成を進める。

【一体的な街角空間の形成】

- 3) 道路が交差する街角空間において街角広場を整備し、統一されたデザイン、オブジェ等の配置など、まちの一体感を創出する仕掛けづくりを進める。
- 4) また、各街区に立地する施設の出入口を街角側に向けるなど、人の交流を生み出す仕掛けづくりを進める。

【敷地内等における歩行者空間の確保】

- 5) 個々の敷地内では、歩行者が安全に歩ける歩行者空間の確保を進める。
- 6) 公道・敷地内ともに歩行者動線の連続性を確保することでまちの回遊性を高め、一体感を創出する歩行者ネットワークの構築を進める。
- 7) 歩行者空間において、ストリートファニチャーや憩い・休める場所の整備など歩いて楽しめる空間づくりを進める。

【オープンスペースの確保】

- 8) 各敷地内において、働く人や訪れる人が気軽に憩い・集えるコミュニティ形成の場や、災害時の避難スペースになるオープンスペースの確保を進める。
- 9) 主要な道路においては、敷地境界線から建物壁面までの後退距離（セットバック）を定めることで沿道に歩道状オープンスペースを確保し、豊かな歩行者空間の確保を進める。

【敷地内における緑化推進】

- 10) 民有地内においても緑を積極的に生み出し、まち全体として緑豊かな空間づくりを進める。

【一体的機能の誘導】

- 11) 相互補完・連携する機能などを集積させることで、機能的なまちの一体感づくりを進める。

2. 「大学100年の歴史と緑」を活かす

【既存樹木の活用】

- 12) 既存樹木については、樹種、樹形、樹齢の状況等に配慮しながら、現地保存、公園・緑地・街路樹・民有地内への移設などを検討する。
- 13) できるだけ既存緑地等を活かしながら、新たな公園・緑地の整備を進める。

【歴史文化資源の活用】

14) 大学内に立地している近代建築物については、建物の価値・重要性等を考慮しながら、保存・活用を検討する。

【九州大学の面影・記憶の継承】

- 15) かつてこの地に九州大学が存在したことを示し、九州大学の面影・記憶を継承する「証」の保存を検討する。
- 16) 「証」を歩行者空間等に移設するなど、大学の面影を感じながら、記憶をつなぎ・たどることができる歩行者ネットワークづくりを進める。

3. 「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

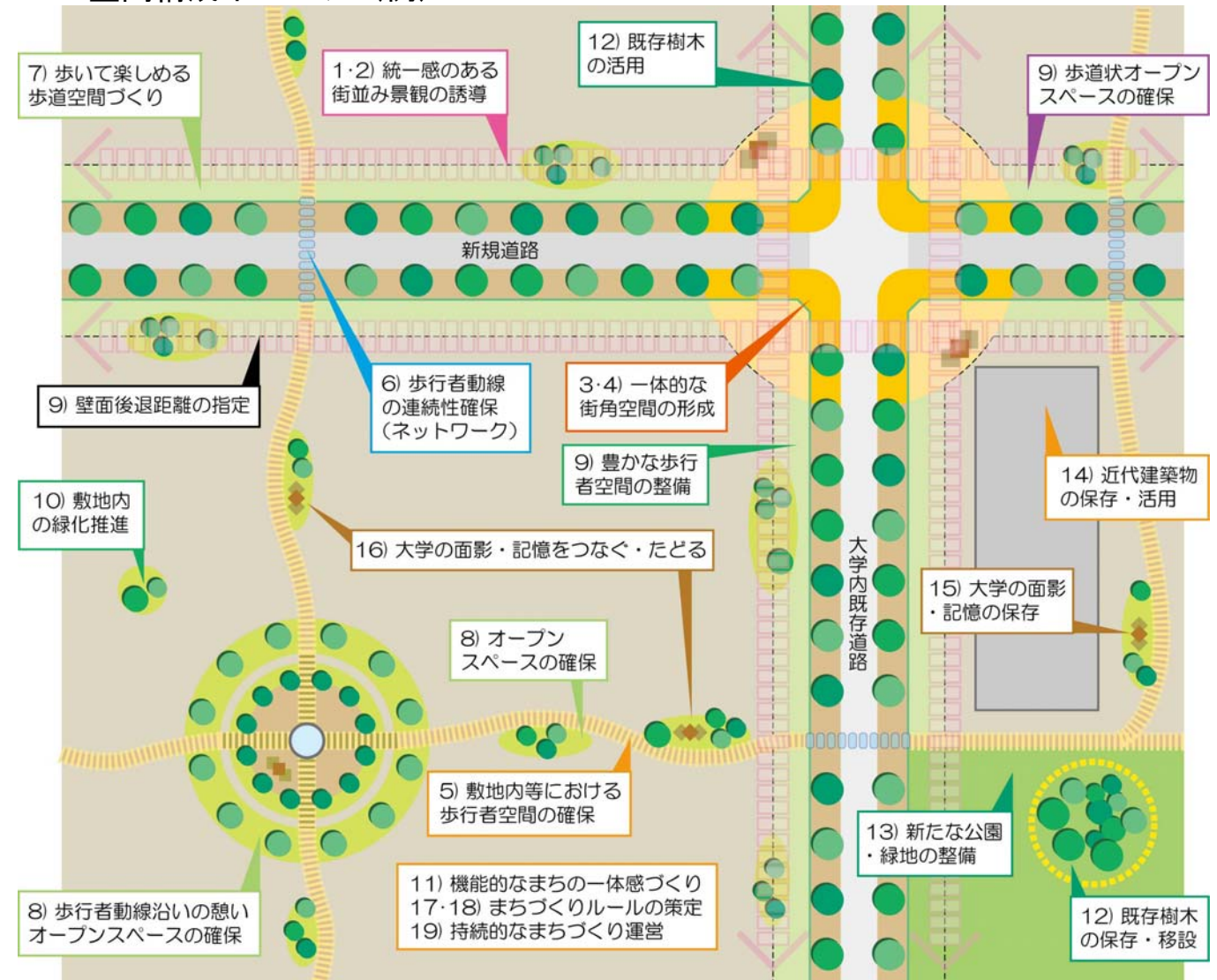
【まちづくりルールの策定】

- 17) 「①まちの一体感の創出」「②大学100年の歴史と緑」等のまちづくりを実現するために、地区計画の策定、ユニバーサルデザイン等を踏まえたデザインルールづくりなど、まちづくりに関するルールづくりを検討する。
- 18) 地元住民、福岡市、九州大学、事業者など多様な主体の参加を促し、ルールの策定を進める。

【持続的なまちづくり運営】

- 19) 共通のイメージに基づいたまちづくりの推進を担保するために、100年後の将来に向けて持続的にまちづくりの運営を行う組織設立などの仕組みづくりを検討する。

■空間構成イメージ（例）



土地利用ゾーニングについて

土地利用ゾーニングの考え方

【基本的な考え方】

■多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する（委員会意見等、空間構成の考え方）

・周辺との調和に配慮した「土地利用ゾーニング」に基づいて機能誘導を図り、「空間構成の考え方」に基づいたまちづくりを進めることによって、まち全体の一体感を創出する。

■周辺地域と調和・連携する（委員会意見等）

・周辺地域との調和・連携に配慮しながら、まち全体の生活利便性の向上や魅力向上につながるような都市機能の配置を進め、周辺地域との一体的な発展をめざす。
 ・周辺地域の交通利便性や防災性の向上につながるような道路・公園等の都市基盤づくりを進める。

【国道3号沿道・駅周辺地域】

《地域特性（現況）》

・2つの鉄道駅（地下鉄箱崎九大前・貝塚駅）に近接しており鉄道利便性が非常に高い地域
 ・九州の骨格幹線道路である国道3号の沿道であり、福岡都市高速道路貝塚ランプにも近接している自動車によるアクセス利便性が非常に高い地域
 ・国道3号沿道には商業・業務施設、飲食店等の他、貝塚団地などの共同住宅の立地も多く見られる地域

■「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン（まちづくりの方針1）

・交通利便性の高さを活かしながら、主に福岡市の持続的な成長に資する、新たな活力・交流を生み出す機能を配置するゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針1：成長・活力・交流に関わる機能
 ○新産業創造機能、業務商業機能 ○広域行政機能
 ○コンベンション機能、スポーツ・交流機能、文化発信機能
 方針3：安全・安心・健やかに関わる機能
 ○防災機能 ○生活利便機能、居住機能 など

□新しく生まれ変わる箱崎キャンパスの「顔」となるゾーン

・駅周辺地域は、居住者や働く人、来街者など多くの人が行き交い、ふれあう「顔」となる地域であることから、特に重要なゾーンとして位置づける

《立地が考えられる主な機能等》

○まちの顔となる機能、にぎわい・交流機能
 ○交通利便性を高める機能 など

【箱崎キャンパス全体】

■「環境」と共生し、再生「エネルギー」を積極的に活用する（まちづくりの方針5）

・地蔵松原と称された松林など、歴史的な由来を継承しながら、これからも豊かな緑を守り・育てる。
 ・九州大学の先進的な環境技術を活用しながら、まち全体で環境と共生し、持続可能なまちを形成する。

【JR鹿児島本線沿線地域】

《地域特性（現況）》

・箱崎キャンパスの東側は、UR団地や市営住宅団地、戸建住宅など住宅系の土地利用が多い地域
 ・近年、箱崎土地区画整理事業区域内などでも集合住宅等の立地が進んでいる地域
 ・航空機騒音の影響を比較的受けにくい地域

■「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン（まちづくりの方針3）

・周辺住宅地への影響、周辺住宅地からの施設利用などを考慮しながら、主に安全・安心・快適で健やかに暮らす環境づくりを進めるゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針3：安全・安心・健やかに関わる機能
 ○医療・福祉機能、健康増進機能 ○防災機能
 ○生活利便機能、居住機能 など

【箱崎キャンパス～箱崎宮地域】

《地域特性（現況）》

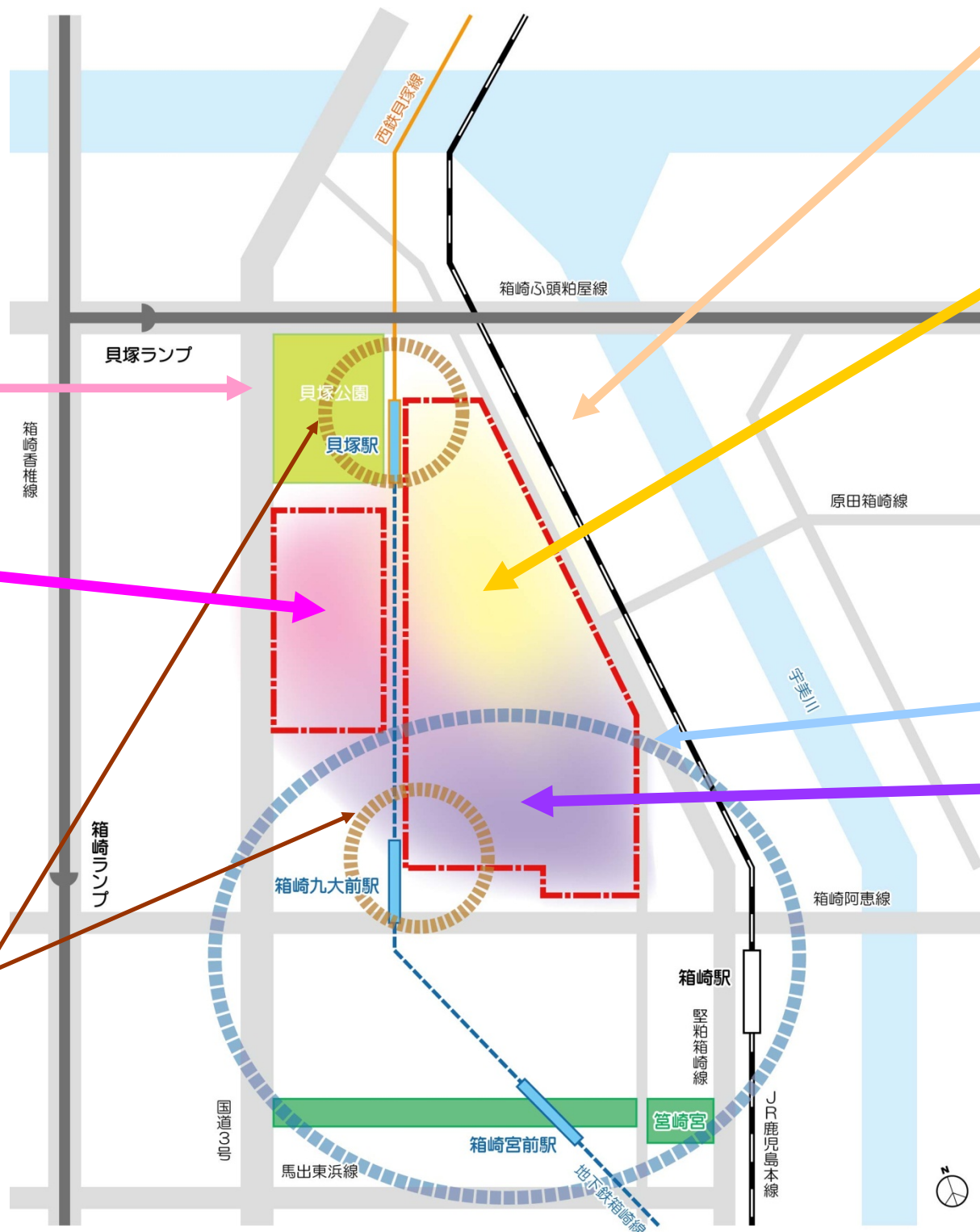
・箱崎キャンパス正門周辺を中心として、大正から昭和初期に建築された近代建築物が立地している地域
 ・箱崎キャンパスの南側は、箱崎宮、旧唐津街道沿いの町家等の歴史・文化的な地域資源が豊富に見られる地域

■九州大学の「教育・研究」環境を継承し、箱崎のまちが持つ「歴史・文化」資源を活かすゾーン（まちづくりの方針2、まちづくりの方針4）

・九州の最高学府「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを活かしながら、充実した教育・研究環境を継承するゾーン。
 ・箱崎が有する、千年のまち、大学百年の歴史文化資源を活かすゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針2：教育・研究に関わる機能
 ○教育・人材育成機能 ○研究・開発機能 ○留学生支援機能
 方針3：安全・安心・健やかに関わる機能
 ○医療・福祉機能、健康増進機能 ○生活利便機能、居住機能 など



跡地利用（処分）の進め方

跡地利用（処分）の進め方

九州大学の移転事業スキームにおける基本方針

- 第Ⅲステージの施設整備費については、箱崎キャンパス跡地等の売却収入で賄う

第2回委員会資料「九州大学の移転事業スキーム・スケジュール」より

跡地利用（処分）にあたっての基本方針

○ 将来ビジョンの実現

- ・九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会による提言を基本とした「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」の実現を図る。

○ 移転後の速やかな跡地利用

- ・周辺商店街等への影響などまちの活力低下を最小限にするため、各地区の移転後の速やかな跡地利用を促進する。

○ 跡地全体について、統一感・一体感のあるまちづくりの推進

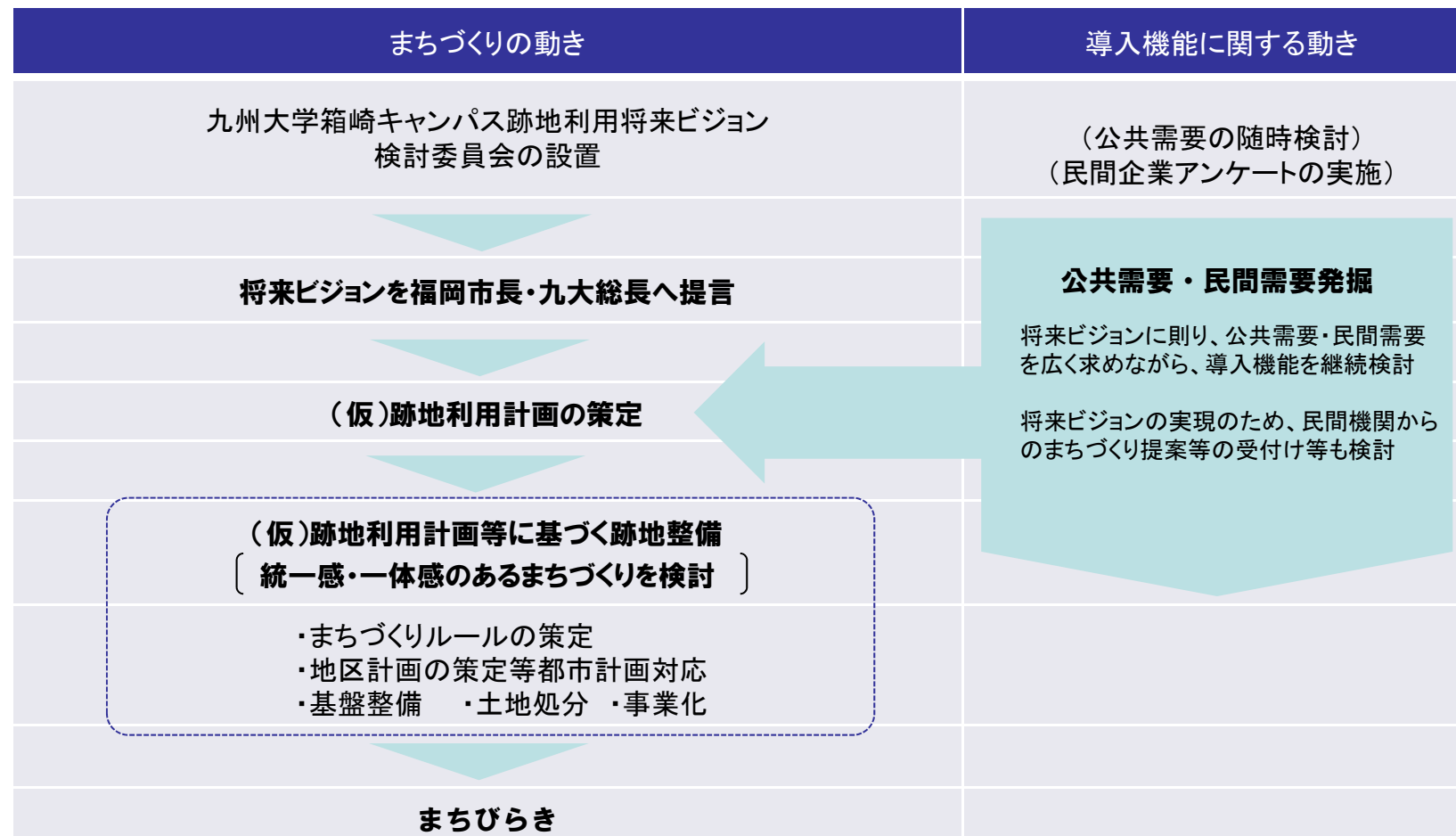
- ・移転後の速やかな跡地利用のため段階的な土地利用の転換を図る場合においても、跡地全体について、統一したコンセプトに基づき、全体として一体感を創出するまちづくりを推進する。

○ 周辺地域との調和・連携

- ・箱崎キャンパス周辺の市街地や歴史資源、交通施設等の立地状況などの地域特性を踏まえ、周辺地域と調和・連携し、一体的に発展できる跡地利用を誘導する。

■ 跡地利用（処分）の進め方（イメージ）

～ 将来ビジョン策定後は、実際の需要にも配慮しながら（仮）跡地利用計画等を策定し、将来ビジョンの実現を図る



■ 箱崎キャンパス移転スケジュール

